

学校番号					
2	1	0	0	4	

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 12 日

札幌市立 中央小学校

1 今年度の目指す学校像

瞳かがやき笑顔あふれる中央小学校

- ★全ての人がその人らしく輝く学校
- ★学びがいきい、通わせがいきい、働きがい、満ちた学校
- ★家庭・地域と共に学校文化を創りあげていく創造性に満ちた学校

2 本年度の目指す子ども像

人とのつながりを大切にし、自分や相手を大切にすること

3 自己評価結果に対する学校関係者評価（学校経営の重点目標に沿って評価項目を設定）

分野		評価項目		自己評価		学校関係者評価		
				達成状況	改善方策等	自己評価の適切さ	改善案の適切さ	
知・徳・体の調和のとれた育ち	学ぶ力	自ら学習や生活のルールを守り、主体的に課題探究的な学習に取り組んでいましたか。	【課題探究的な学習を目指した授業づくり】 4つのセルフチェックの視点から授業づくりや授業後の振り返りを行うことで授業改善に努めることができたか。	A	今年度は10月に研究会を行い、指導主事や他校の先生方に授業を見ていただきました。研究会を行うにあたり、「子ども主体の授業」とはどういうものかを、各教科部会の中で話し合い、授業づくりを進めてきました。 次年度以降も、子ども自身が自己選択・自己決定を行う授業の実践を積み重ねていきます。そのために、研究推進の形を見直し、子どもも教師も主体的に取り組むことができる体制を整え、研究の推進を進めていきます。	A	A	
			【単元における評価計画の明確化】 学年研修を通して、評価規準を明確にし、よさや伸びを認める指導と評価の充実を図ることができましたか。	A	年間単元計画を作成し、各教科のつながりを見通しながら教育課程を進めてきました。また、学年専科を取り入れることで学年全体を同じ視点、同じ評価基準で進められるようもありました。 今年度の取組を今一度振り返り、課題や改善点を次年度の学年に引き継いでいきます。			
			【学年全体で子どもを育てる】 専科指導、学年教科担任制を推進したり、学年としての取組を推進したりすることで子どもの学びを支える取組の充実を図るよう努めることができましたか。	A	中央小独自の学年教科担任制を推進してきました。学年全体の児童を把握し、教科の専門性を生かすことができています。子どもたちの関わり感にも、複数の先生で対応・共有することができ、チームとして関わることもできました。 時間のやりくりや調整など事務的な面で課題がありました。特別教室の割り当てについて年度当初に見直しをもつこと、ペア学級で専科を行うなど、取り組みやすさも念頭に置いて進めてまいります。			
	豊かな心	子どもたちは、人とのつながりを大切にし、自分やまわりの人たちを大切にしていますか。	【自己の生き方を見つめる道徳教育】 道徳科を要として、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、生き方について考えを深めるような「考え、議論する」学習活動の充実を図ることができましたか。	A	道徳推進教諭を中心として、教科の中だけでなく、学校教育全体で道徳教育を行ってきました。道徳推進教諭の発信だけでなく、それぞれの先生が日々の授業の様子や板書を互いに共有し合う姿も見られました。 生成AIを活用し、子どもたちが自ら考える授業も生まれ、次年度も、自らの視点だけでなく、多角的に考えられる道徳教育を推進してまいります。	A	A	
			【命を大切にする教育】 「自分も相手も大切にすること」や「学年として大切にしたいこと」を子どもたちとともに共有し、自己の成長や頑張りを振り返る機会をつくり、互いのよさに気付く、認め合うことができる機会をつくり出すことができてきましたか。	A	養護教諭が「全学年において「いのちの学習（性に関する指導）」を行いました。また、キャリアパスポートを用い、自分のよさや自分の成長についても考える機会を設けてきました。 学期の初めや行事の取組の最初などに、学年全体で目標や目指したい姿を子どもたちから引き出し、自分たちのがんばりを自分たちで振り返られるように関わっています。			
			【いじめの未然防止】 いじめは「しない、させない、許さない」学級、学校づくりを目指し、日常からいじめにつながる行為やからかい等、気になる行為や問題行動があった際には情報を共有することや一人一人の子どもの心と向き合う機会をつくり、寄り添った指導をすることができましたか。	A	年間3回のいじめアンケートを実施し、子どもたちの悩みや困り感を確認し、共有、対応してきました。また、いじめ防止対策委員会やケース会議を積極的に開き、保護者との対応、今後の見直しなどを確認し、学校として同じ方向を見ながら取り組むことができてきました。 次年度も素早く丁寧な対応、情報の共有を心がけてまいります。			
	健やかな体	子どもたちは、学校や家庭等で、進んで運動に親しみ、体を動かすことを楽しんでいますか。	【体力向上に向けた指導の充実】 研修等を通して「体を動かすことが好きになる」授業づくりを目指し、教員の資質向上を図ったり、栄養教諭や養護教諭、外部の講師等を活用して健康に関する指導の充実を図ることができましたか。	B	体育専科を有効的に活用できるよう、各学年の打ち合わせ等を行ってきました。また、栄養教諭や養護教諭の授業を行い、健康・安全についての学びも進めてまいりました。 次年度は、これまでに学年の運動の系統性を意識し、体力向上プロジェクトが作成しているカリキュラムの積極的な活用を図っていきます。	A	A	
			【子どもとともに運動に親しむ】 限られた環境を最大限に生かし、子どもと一緒に体を動かすことで健やかな環境づくりをすることができましたか。	B	今年度も北ガスアリーナを活用し、スポーツフェスティバルを実施しました。その中で、今年度の新たな取組として、保護者と2年生が一緒に運動に親しむ場を設定しました。多くの保護者が参加し、運動を楽しむ様子が見られました。 学校内だけでなく、家庭も一緒に運動に取り組む意識を高められるよう、周知も行なってまいります。			
	学校関係者評価委員会による意見		【学ぶ力】子どもたちの主体性を伸ばす取組が多くあり、教員と児童と一緒に考えている姿勢が感じられた。参観授業で子どもたちの発表の様子を見たときに、一人一人が保護者に向けて説明をし、質問を受ける様子が見られた。子どもたちの学ぶ力が高まっているように思う。教科担任制では、担任以外の教員と関わりが増えるなど、子どもたちにとってメリット多くあると思うが、教職員にとって負担が大きいように感じた。調整が大変かと思うが、無理なく継続してほしい。 【豊かな心】いじめアンケートなどの調査をもとに丁寧に対応してくれていると思う。これからのいじめアンケートの小さなサインを見逃さずに対応してほしい。 【健やかな体】北ガスアリーナの利用の際に、保護者参加型の運動、活動にしたというのがとてもよいと感じた。					
	重点項目	多様な学びの場の創造	子どもたちは、異学年との交流や特別支援学級と通常学級との交流の機会に積極的に参加していたか。	異学年交流や地域交流、幼保小や小中の連携を図り、多様な人との関わりから自分も相手も大切にする心を育成することができましたか。	A	学校内では異学年交流（ふれあい活動）、幼保小連携では5年生の総合的な学習の時間や低学年の生活科で、地域の子どもたちと交流することができました。 次年度は異学年のかかわりをさらに深めようと、ふれあい活動の時間以外にも異学年が一緒に取り組む活動ができさないか検討しています。遊びだけでなく掃除などの活動でも一緒に取り組むことで、互いのよさを感じることができたり、上学年へのあこがれを抱く機会を増やしていけると考えています。	A	A
ICTを活用した教育の推進		子どもたちは、一人一台端末をツールとして活用し、正しい情報技術の利用ができていたか。	一人一人が情報手段を用いて、適切に情報を収集・整理・比較したり選択、発信したりすることで、協働的な学びの質を高めることができるよう、効果的な活用をすることができましたか。	A	教育活動の中で、ICTを積極的に活用していくだけでなく、子ども自身が使い方を考え、選択できるように関わってました。市内・市外からも多くの視察が訪れ、子どもたちのICT活用力に驚いているようでした。 次年度も子どもたちが一人一台端末を効果的に活用し、自ら学習に取り組んでいるよう、教師自身も生成AIなど新たな授業実践を重ね、子どもたちの主体的・協働的な学びを支えてまいります。	A	A	
家庭や地域との連携		子どもたちは、家庭や地域の人に支えられていることを実感することができていたか？	地域人材の活用に努めたり、保護者と協働して子どもたちの学びを支えたりすることができるよう、働きかけることができましたか。	A	企業の方に交通安全の見守りをしていただいたり、地域の方に花植えをさせていただくなど、たくさん地域の地域の方に支えられました。また、「ツツガムらちゅうおう」でも地域のコーディネーターとともに、様々な企画を行ってききました。 協力していただけるこの地域の人材を大切に、次年度も御協力いただきながら、子どもたちの学びの充実を図ってまいります。	A	A	
学校関係者評価委員会による意見		・子どもたちが互いのよさを感じるだけでなく、尊重し合う姿勢も大切にしていけたらよい。 ・地域連携事業が多く、児童アンケートでも地域に支えられていると実感することができるとい回答がほとんどであり、目標を達成できていると評価できる。 ・ICTや地域との関わり等に対して、保護者ももっと子どもに関わっていく必要があると、保護者アンケートの回答を見て思った。 ・放課後のグラウンド開放を行っていない学校が多くある中、子どもたちが自由に使える状況であることがとてもよい。今後も継続してほしい。						